

## 兵庫県南部地震で臨宗招集

### 全本山男子職員を被災寺院へ派遣

#### 2月6日 本願寺派

浄土真宗本願寺派（松村了昌総長）は、今回の兵庫県南部地震で甚大な被害を受けた兵庫教区（土基謙教教務所長）の百カ寺余りの寺院や門信徒らを救援する財政的、法規的な緊急措置を講じるため二月六日に急遽臨時宗会（北條成之議長）の招集を決めた。

西日本に教線の基盤を張る本願寺派にとり七百七十五カ寺の寺院を有する兵庫教区は大阪、安芸などと並び“宗派のお台所”と呼ばれる重要拠点。被災寺院の殆どが本堂、庫裡が全壊、半壊という甚大な被害を受け、また、本来なら寺院の復興の礎となる門信徒も多数が人的、物的な被害に遭っており、復興への道は極めて厳しい条件下に置かれている。

今回の臨宗で、松村総局長は二年から三年にわたる長期的な特別会計を組み、全宗門への被災寺院救済のための募財を呼び掛け、これを復興資金として兵庫教区、各被災寺院へ援助する財政的、法規的な緊急措置を講じるものと思われる。

また、総局長は本山宗務所に勤務する男子職員百五十人を三十班に分けて、二十四日から三十一日まで一週間にわたって復旧の援助のため各被災寺院に派遣することを決めた。佐藤哲紹文書部長は「このような自然災害はいつ自分達の寺院にふりかかるか知れないし他人事ではあり得ない。被災寺院の復興がご門徒の復興につながる」と、各職員の奮闘を期待していた。

## 展望'95年

### 兵庫県南部地震被災寺援助課題に

最後に、十七日未明に発生した兵庫県南部地震被災寺院への救援と復興への援助も怠ってはなるまい。

地震に関しては、十日に行なわれた宗務院の「新年御用始め」並びに「新年祝賀交換会」で、審査会・調停委員会を代表して挨拶した広野観順第二部審査会会長が、「五黄土星にあたる年には動乱や巨悪犯罪、さらに大地震などが起こるのがこれまでの習い」と指摘し、例えば長元五年（一〇三二）には富士山が大爆発、また宝永四年（一七〇七）にもかの有名な宝永の大爆発が起こっているほか、大正十二年には関東大震災、昭和四十三年には十勝沖地震、昭和五十二年には有珠山の大爆発があったことなどを紹介したが、不運にもこれが的中する結果となってしまった。

これに対して、奥郵総局長は素早い対応を見せ、十七日夜には大阪から神戸に向かい、十八日未明に現地に入つて、兵庫県東部宗務所（神戸市中央区・本妙院＝大塚泰詮所長）を訪れ、情報収集とお見舞いを行なったほか、十八日には宗務院に、加賀美泰全庶務部長を本部長とする「兵庫県南部地震対策本部」を設置、また二十日には宗門全寺院・五千五百カ寺に、直接郵送で義援金勧募の依頼状を発送している。

二十日現在の情報では、神戸市東灘区の妙見寺で本堂が全壊し、岩田随教住職がその下敷きになって圧死するという痛ましい事故が起こったほか、神戸市兵庫区の法蓮寺、同・行守寺、同・妙徳寺、西宮市の浄願寺などで本堂が倒壊したという。

このほかにも、神戸市内や周辺市町村の宗門寺院では、何らかの被害が出ていることから、今後、救援対策が大きなテーマとして浮上しそうだ。